

平成28年度 入学式 式辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。東京富士大学の教職員一同、皆さんの入学をお祝いし、心より歓迎いたします。

新入生の皆さんを今日まで支えてこられたご家族の皆さまには、入学式にご列席いただき感謝申し上げますとともに、心よりお慶びを申し上げます。

また、本日の入学式にご臨席賜りました、ご来賓の皆さまに、厚くお礼申し上げます。

さて、新入生の皆さんは、本日から、東京富士大学の学生として、新たな出発をすることになります。皆さんは、新しい学生生活を前に大きな期待や希望を抱いていることと思います。一方で、少し不安もあるかもしれませんが、皆さんのこれからの大学生活が充実した実り多いものとなるように、教職員一同、全力を挙げて、皆さんを支援していくことを、はじめにお約束したいと思います。

本年も、母国を離れ、本学での学生生活を始める留学生の皆さんをお迎えしています。これまでとは全く異なる環境の中での生活や学習にご苦労も多いことと思いますが、留学の目的を達成していただくことを願っております。

また、大学院に入学される皆さんにおかれては、大学までの学習を土台に、さらに研鑽を深められ、大いに自分を伸ばしていただくよう期待しております。

東京富士大学は、大学としては平成14年（2002年）に開学した若い大学ですが、その沿革をたどりますと、70年余りの歴史のある学園です。皆さんが本学での学生生活の第一歩を踏み出すにあたり、学園の歴史を振り返りながら、東京富士大学の教育理念・教育方針について述べたいと思います。

本学園は、昭和18年（1943年）に、高田勇道（たかた ゆうみち）先生によって創設されました。当時は、世界大戦のさなか、旺盛な向学心を持ちながらも、高等教育機関への進学を断念せざるを得ない多くの若者がいました。高田先生は、こうした中で将来の日本を背負う青年を育成する「人間教育」の大切さを唱えられ、本学の母体である「東亜学院」を創立されたのです。

高田先生は、建学の趣旨として、「人道による世界平和」の理想のもと、新しい時代を拓き、これを担っていく活力ある人材を養成するための中核となる精神として、3つを挙げられました。

それは、第1に「大愛（おおきな愛）の涵養に務る（つとむる）こと」、第2に「正義の顕揚を図ること」、第3に「文化の向上に資すること」、の3点です。これらは、本学園の建学の理念として、東京富士大学においても変わることなく引き継がれています。

大戦後、学園は、本格的な高等教育の実現を目指し、昭和26年（1951年）に、「富士短期大学」として再出発しました。そして、ほぼ半世紀にわたる富士短期大学における人材育成の成果の上に、我が国の経済社会の進展や知識の高度化等の要請に一層適切に対応することを期して、「東京富士大学」が設立され、創立者高田先生の思いを今に受け継いでいるのです。

校名の「富士」には、富士山が日本を代表する名山と称えられているように、「ふたつとない『不二』の学園と仰がれる」ような、大いなる将来への願いが込められているのです。

では、本学ではどのような教育理念の下で、教育が行われているのか、お話ししたいと思います。

本学の教育は、高田先生が掲げられた建学の精神に則って、「社会に貢献できる有為な人材を育成するために、時代に即した『人間教育』を行うこと」を基本としています。その上で、「経営学を中心とした教育を通して、職業ならびに社会生活において必要とされる能力を育成すること」、そして「幅広い教養教育によって品位の向上を図り、判断力を養い、人間性豊かな調和の取れた教育を行うこと」、を目指しています。

このような理念に沿った教育を行うにあたり、本学では『教育とは学生に生命（いのち）をあたへてゆくことである』という「創立者の自戒の言葉」を教育指針として掲げています。『教える側と教わる側の心の触れ合いを通して、学生の夢を育み学ぶ意欲を起こさせるような熱意と信念を持った教育を行うことにより、学生が厳しい現実の社会の中で生き抜いていける、たくましい生命力をもたらすこと』。この創立者の言葉こそ、本学の教育の原点であり、教育の基本的な指針となっているのです。

さて、本学の教育の特色は、「21世紀の知識社会を生きていく上で求められる創造性と実践的な能力を備えた人間力」、言い換えれば『社会人としての基礎力』を養うことにあります。そのために、インターンシップやイベント実習などの体験型学習を広く取り入れるとともに、将来の職業に対する意識を高めるキャリアアップ教育など、実社会との結びつきを重視した授業を展開しています。

さらに、実務知識の習得や資格の取得だけでなく、多様な社会体験を通じて、「社会人

としての教養を含めた総合的な知性」、すなわち『質の高い実務知性』を育てる大学として、社会の要請に一層応えることを目指しています。

本学では、小規模大学としての特色を生かし、ほとんどの授業は少人数で行われ、きめ細かい学習機会を提供するなど、学生一人ひとりを支援しています。さきほどご紹介しました「創立者の自戒の言葉」にもありますように、学生との人間的な交流、触れ合いを大切にしていますので、新入生の皆さんには、さまざまな学習や交流の、機会や場をぜひ積極的に活用することにより、自分の将来のための基礎を築いていくことを期待しています。

以上、本学の建学以来の教育理念や現在の教育方針等について申し上げてまいりましたが、その上で、これから学生生活を始めるにあたって、皆さんにお願いしたいことを、3点申し上げたいと思います。

第1に、大学は、高等学校までとは大きく異なるものであることを、はじめに心に留めておいてください。

これまでの勉強は、多くの場合、与えられた課題に対してどのように答えを出すかという受け身的なものだったと思います。しかし、大学では、自主性・自発性が重視されます。「知識や技術を教えてもらう」ということだけが目的ではありません。獲得した知識や技術を活用しながら、広い視野をもって、『自らが課題を発見し、その解決策を自分自ら探求していくこと』。そのような姿勢を、学習の場面に限らず、常に持っていただきたいと思えます。

第2に、そのためにも、何事にも失敗を恐れることなく、積極的に挑戦してください。失敗したり間違ってしまったら、その原因をしっかりと確かめて、次の機会には改めればよいのです。失敗は得難い経験として、自分自身が将来大きく飛躍する基礎となるものです。新しいこと・新しい課題に挑戦するときには、「失敗して当たり前」、「失敗したらやり直せばよい」との気持ちで、自信を持ってチャレンジしてください。

第3に、大学はそのようなチャレンジをする機会に満ちているところです。皆さんを取り巻く多くのもの、キャンパスの学友たちや熱意ある教職員も含め、皆さんが関わる多くの人たちと、積極的に触れ合い、交流することによって、皆さんの日々の大学生活は、より楽しく充実したものとなると思います。

皆さんは、「自分探しの旅」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。しかし、「自分」というものは、探せばどこかにあるというものではありません。さまざまな経験を積み重

ねながら、いろいろな人と出会い、時にはつらい失敗もしながら、自己の責任において、少しずつ「自分」を築き上げていくものだと思います。

皆さんが大学にいる期間は、自分自身を作っていく上で、とても貴重なときです。大学での生活を、これからの自分を作り上げていくための、いろいろなチャレンジができる場として、十分に生かしていただきたいと思います。

最後に、本日ご列席の保護者の皆様をお願いを申し上げたいと存じます。

東京富士大学におきましては、先ほど来申し上げてまいりました、一人ひとりへのきめ細かな学習支援を含め、様々な形で学生支援体制を充実・強化し、文字通り、「面倒見の良い大学」の実現のために努力を重ねてきております。ご家庭と大学との関係につきましても一層の連携を図りながら、ご家庭との協力のもと、大学として全力を挙げて、学生の自立・成長を支援してまいりたいと考えております。必要がありましたら、ご遠慮なく大学にご連絡・ご相談をくださいますよう、お願いいたしますとともに、本学の教育にご理解とご協力を賜りますよう、この機会にあらためてお願い申し上げます。

以上、入学式にあたり、本学を代表して歓迎の言葉を申し上げましたが、私はこの4月から学長に就任したばかりの、皆さんと同じ新入生です。皆さんが東京富士大学とともに、自分自身の新しい歴史を作っていくことができますように、今日からともに努力してまいりましょう。

新入生の皆さんが、一日も早く新しい環境に慣れ、充実した有意義な大学生活を過ごしていただくことを心より期待し、式辞といたします。

平成28年4月3日

東京富士大学学長 長谷川 裕恭